

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投資／海外／債券	
信託期間	約5年間（2016年3月22日～2021年3月10日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ日本企業外債マザーファンド S 2016-03の受益証券
	ダイワ日本企業外債マザーファンド S 2016-03	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、日系企業が発行する外債建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②劣後債も投資対象とします。その組み入れは純資産総額の30%程度を上限とします。</p> <p>③マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>④保有実質外債建資産については、（為替ヘッジあり）においては為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。（部分為替ヘッジあり）においては為替ヘッジを行なうことにより、当ファンドの実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざします。 ※保有実質外債建資産とは、当ファンドが保有する外債建資産およびマザーファンドが保有する外債建資産のうち当ファンドに属するとみなした外債建資産をいいます。</p>	
	マザーファンドの運用方法	<p>①運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてB B B格相当以上（R &amp; I、J C R、S &amp; P、フィッチのいずれかでB B B-以上またはムーディーズでB a a 3以上）とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。</p> <p>②為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行いません。</p>
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	<p>分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行いません。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

# ダイワ日本企業外債ファンド S （為替ヘッジあり／ 部分為替ヘッジあり） 2016-03

## 運用報告書（全体版） 第4期 （決算日 2018年3月12日）

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ日本企業外債ファンド S（為替ヘッジあり／部分為替ヘッジあり）2016-03」は、このたび、第4期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<3600>  
<3601>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配) 落	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定 (2016年3月22日)	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	% 100.0
1期末 (2016年9月12日)	10,162	110	272	2.7	5.7	90.2	-	100.0
2期末 (2017年3月10日)	9,750	80	△332	△3.3	△0.6	94.7	-	100.0
3期末 (2017年9月11日)	9,953	60	263	2.7	1.4	93.9	-	95.3
4期末 (2018年3月12日)	9,711	40	△202	△2.0	0.0	93.1	-	86.5

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。

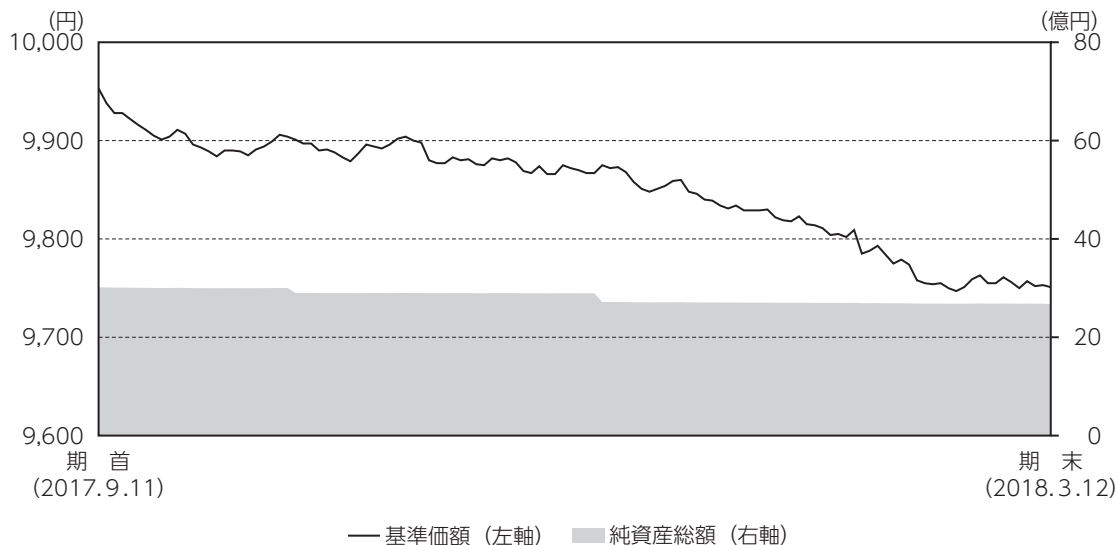
(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,953円

期末：9,711円（分配金40円）

騰落率：△2.0%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本企業外債ファンドS（為替ヘッジあり）2016-03

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率	債 券 先 物 率
		騰 落	率		
(期首) 2017年 9月11日	円		%	%	%
	9,953		—	93.9	—
9 月末	9,893		△0.6	97.3	—
10月末	9,896		△0.6	97.6	—
11月末	9,869		△0.8	96.7	—
12月末	9,848		△1.1	97.0	—
2018年 1 月末	9,805		△1.5	93.4	—
2 月末	9,755		△2.0	92.8	—
(期末) 2018年 3月12日	9,751		△2.0	93.1	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2017.9.12~2018.3.12)

### ■米国債券市況

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

米国では、2017年9月開催のFOMC（米国連邦公開市場委員会）において、FRB（米国連邦準備制度理事会）がバランスシートの縮小開始を決定するとともに、追加利上げの可能性も示唆したことなどから、期首より金利の上昇圧力が高まりました。また、税制改革法が成立したことなどを背景に、市場のリスク選好姿勢が強まったこともあり、金利は上昇基調となりました。2018年2月に入ると、平均時給やCPI（消費者物価指数）などの経済指標が強含んだほか、トランプ政権による財政拡張への期待も高く、市場ではインフレ率の上振れに伴う利上げ加速が警戒されました。国債金利が高止まる中で株価や商品市況は一時調整色を強めるなど、市場にはリスク回避姿勢が広がりました。

米ドル建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が反転し、期末にかけて拡大圧力が強まる展開となりました。

## 前期における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2017.9.12~2018.3.12)

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は40円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が40,498,141円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益40,498,141円（1万口当り147.15円）を分配対象額として、うち11,008,000円（1万口当り40円）を分配金額としております。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2017.9.12~2018.3.12)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	27円	0.269%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,849円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0.162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0.094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	27	0.279	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2017年9月12日から2018年3月12日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	105,099	108,000	388,236	408,200

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表  
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千□	千□	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	2,896,991	2,613,854	2,598,432

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	2,598,432	96.6
コール・ローン等、その他	92,340	3.4
投資信託財産総額	2,690,773	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=106.95円です。

(注3) ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03において、当期末における外貨建純資産(5,119,269千円)の投資信託財産総額(5,517,141千円)に対する比率は、92.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	5,271,846,501円
コール・ローン等	31,819,407
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03(評価額)	2,598,432,527
未収入金	2,641,594,567
(B) 負債	2,599,498,282
未払金	2,581,073,000
未払収益分配金	11,008,000
未払信託報酬	7,303,364
その他未払費用	113,918
(C) 純資産総額(A - B)	2,672,348,219
元本	2,752,000,000
次期繰越損益金	△ 79,651,781
(D) 受益権総口数	2,752,000,000□
1万口当り基準価額(C / D)	9,711円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,711円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は79,651,781円です。

■損益の状況

当 期 自2017年9月12日 至2018年3月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 7,333円
支払利息	△ 7,333
(B) 有価証券売買損益	18,969,344
売買益	146,748,277
売買損	△127,778,933
(C) 有価証券評価差損益	△ 69,043,379
(D) 信託報酬等	△ 7,725,895
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	△ 57,807,263
(F) 前期繰越損益金	△ 14,190,518
(G) 解約差損益金	3,354,000
(H) 合計(E + F + G)	△ 68,643,781
(I) 収益分配金	△ 11,008,000
次期繰越損益金(H + I)	△ 79,651,781

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。



<b>収 益 分 配 金 の お 知 ら せ</b>	
<b>1 万 口 当 り 分 配 金 ( 税 込 み )</b>	<b>40円</b>

**分配金の課税上の取扱いについて**

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

部分為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配) 落	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定 (2016年3月22日)	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	% 100.0
1期末 (2016年9月12日)	9,922	110	32	0.3	0.7	89.6	-	100.0
2期末 (2017年3月10日)	9,878	100	56	0.6	0.9	95.1	-	100.0
3期末 (2017年9月11日)	9,907	80	109	1.1	1.3	94.5	-	100.0
4期末 (2018年3月12日)	9,632	60	△215	△2.2	△0.1	93.7	-	93.1

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

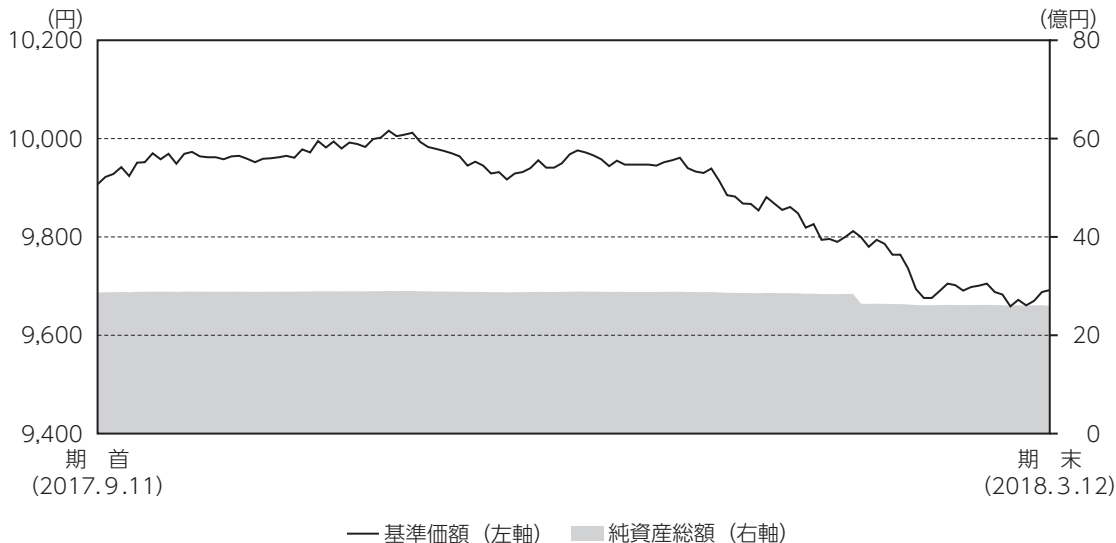
(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,907円

期末：9,632円（分配金60円）

騰落率：△2.2%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、円高米ドル安や社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ日本企業外債ファンドS（部分為替ヘッジあり）2016-03

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率	債 券 先 物 率
		騰 落	率		
(期首) 2017年 9月11日	円	9,907	% -	% 94.5	% -
9 月末		9,964	0.6	97.2	-
10月末		9,983	0.8	97.8	-
11月末		9,932	0.3	96.8	-
12月末		9,940	0.3	97.1	-
2018年 1 月末		9,790	△1.2	94.4	-
2 月末		9,705	△2.0	93.3	-
(期末) 2018年 3月12日		9,692	△2.2	93.7	-

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2017.9.12~2018.3.12)

### ■米国債券市況

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

米国では、2017年9月開催のFOMC（米国連邦公開市場委員会）において、FRB（米国連邦準備制度理事会）がバランスシートの縮小開始を決定するとともに、追加利上げの可能性も示唆したことなどから、期首より金利の上昇圧力が高まりました。また、税制改革法が成立したことなどを背景に、市場のリスク選好姿勢が強まったこともあり、金利は上昇基調となりました。2018年2月に入ると、平均時給やCPI（消費者物価指数）などの経済指標が強含んだほか、トランプ政権による財政拡張への期待も高く、市場ではインフレ率の上振れに伴う利上げ加速が警戒されました。国債金利が高止まる中で株価や商品市況は一時調整色を強めるなど、市場にはリスク回避姿勢が広がりました。

米ドル建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が反転し、期末にかけて拡大圧力が強まる展開となりました。

### ■為替相場

米ドルは対円で下落しました。

期首より、FRBがバランスシートの縮小開始を決定し2017年内の追加利上げ実施も示唆したことなどから米ドル円は上昇し、2017年末まで底堅く推移しました。2018年に入ると、米国のムニューシン財務長官による米ドル安容認発言から米ドルが下落したことに加え、日本の金融正常化観測の高まりが円高の材料となり、米ドル円は下落しました。また2月以降も、米国金利の上昇を警戒し株価が急落する中で市場のリスク回避姿勢が強まったことにより、米ドル円の下落が続きました。

## 前期における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないます。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2017.9.12~2018.3.12)

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないました。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は60円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が40,282,591円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益40,282,591円（1万口当り149.31円）を分配対象額として、うち16,187,053円（1万口当り60円）を分配金額としております。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないます。

### ■ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2017.9.12~2018.3.12)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	27円	0.269%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,892円です。
（投 信 会 社）	(16)	(0.162)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
（販 売 会 社）	(9)	(0.094)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
（保 管 費 用）	(1)	(0.005)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（そ の 他）	(0)	(0.001)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	28	0.279	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2017年9月12日から2018年3月12日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千□	千円	千□	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	25,910	27,000	238,969	245,200

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表  
親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千□	千□	千円
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	2,772,323	2,559,264	2,544,165

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03	2,544,165	97.0
コール・ローン等、その他	77,886	3.0
投資信託財産総額	2,622,052	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=106.95円です。

(注3) ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03において、当期末における外貨建純資産(5,119,269千円)の投資信託財産総額(5,517,141千円)に対する比率は、92.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	4,382,602,079円
コール・ローン等	36,529,497
ダイワ日本企業外債マザーファンドS2016-03(評価額)	2,544,165,167
未収入金	1,801,907,415
(B) 負債	1,784,047,853
未払金	1,760,550,000
未払収益分配金	16,187,053
未払信託報酬	7,196,598
その他未払費用	114,202
(C) 純資産総額(A-B)	2,598,554,226
元本	2,697,842,331
次期繰越損益金	△ 99,288,105
(D) 受益権総口数	2,697,842,331口
1万口当り基準価額(C/D)	9,632円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,632円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は99,288,105円です。

■損益の状況

当 期 自2017年9月12日 至2018年3月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 5,858円
支払利息	△ 5,858
(B) 有価証券売買損益	11,566,827
売買益	96,282,796
売買損	△84,715,969
(C) 有価証券評価差損益	△63,853,337
(D) 信託報酬等	△ 7,744,054
(E) 当期損益金(A+B+C+D)	△60,036,422
(F) 前期繰越損益金	△26,814,506
(G) 解約差損益金	3,749,876
(H) 合計(E+F+G)	△83,101,052
(I) 収益分配金	△16,187,053
次期繰越損益金(H+I)	△99,288,105

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は13ページをご参照ください。



<b>収 益 分 配 金 の お 知 ら せ</b>	
<b>1 万 口 当 り 分 配 金 ( 税 込 み )</b>	<b>60 円</b>

**分配金の課税上の取扱いについて**

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

# ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03

## 運用報告書 第4期 (決算日 2018年3月12日)

(計算期間 2017年9月12日～2018年3月12日)

ダイワ日本企業外債マザーファンドS 2016-03の第4期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。</p> <p>※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②劣後債も投資対象とします。その組み入れは純資産総額の30%程度を上限とします。</p> <p>③運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（R&amp;I、JCR、S&amp;P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上）とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。</p> <p>④為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

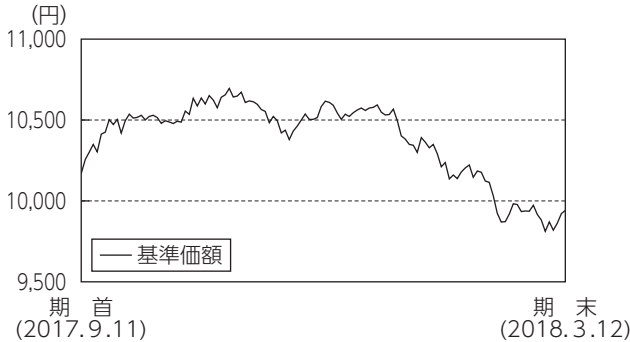
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
		%	%		
(期首) 2017年 9月11日	10,170	-	96.2	-	-
9 月末	10,512	3.4	97.1	-	-
10 月末	10,576	4.0	98.5	-	-
11 月末	10,463	2.9	97.4	-	-
12 月末	10,548	3.7	97.6	-	-
2018年 1 月末	10,138	△0.3	96.8	-	-
2 月末	9,973	△1.9	94.9	-	-
(期末) 2018年 3月12日	9,941	△2.3	95.7	-	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。  
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。  
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,170円 期末：9,941円 騰落率：△2.3%

【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄りましたが、円高米ドル安や社債金利の上昇(債券価格の下落)などを反映し、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○米国債券市場

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇(債券価格は下落)しました。

米国では、2017年9月開催のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、FRB(米連邦準備制度理事会)がバランスシートの縮小開始を決定するとともに、追加利上げの可能性も示唆したことなどから、期首より金利の上昇圧力が高まりました。また、税制改革法が成立したことなどを背景に、市場のリスク選好姿勢が強まったこともあり、金利は上昇基調となりました。2018年2月に入ると、平均時給やCPI(消費者物価指数)などの経済指標が強含んだほか、トランプ政権による財政拡張への期待も高く、市場ではインフレ率の上振れに伴う利上げ加速が警戒されました。国債金利が高止まる中で株価や商品市場は一時調整色を強めるなど、市場にはリスク回避姿勢が広がりました。

米ドル建ての社債については、期首より縮小基調にあったスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が反転し、期末にかけて拡大圧

力が強まる展開となりました。

○為替相場

米ドルは対円で下落しました。

期首より、FRBがバランスシートの縮小開始を決定し2017年内の追加利上げ実施も示唆したことなどから米ドル円は上昇し、2017年末まで底堅く推移しました。2018年に入ると、米国のムニューシン財務長官による米ドル安容認発言から米ドルが下落したことに加え、日本の金融正常化観測の高まりが円高の材料となり、米ドル円は下落しました。また2月以降も、米国金利の上昇を警戒し株価が急落する中で市場のリスク回避姿勢が強まったことにより、米ドル円の下落が続きました。

◆前期における「今後の運用方針」

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

◆ポートフォリオについて

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 (1)
(その他)	(0)
合 計	1

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2017年9月12日から2018年3月12日まで)

			買 付 額	売 付 額
外 国			千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
	アメリカ	社債券	3,501	7,285 (-)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ( )内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は四捨五入。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2017年9月12日から2018年3月12日まで)

当			期		
買	付	金 額	売	付	金 額
銘	柄	千円	銘	柄	千円
Mitsubishi UFJ Financial Group Inc (日本)	2.75719% 2023/3/2	374,525	Sumitomo Mitsui Trust Bank Ltd (日本)	1.8% 2018/3/28	369,516
			Mitsubishi Corp (日本)	3.375% 2024/7/23	171,765
			Nippon Life Insurance Co (日本)	4.7% 2046/1/20	112,746
			Sumitomo Mitsui Banking Corp (日本)	3.65% 2025/7/23	58,765
			Nissan Motor Acceptance Corp (アメリカ)	2.35% 2019/3/4	34,133
			Nippon Life Insurance Co (日本)	5% 2042/10/18	24,275
			Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The (日本)	3.25% 2024/9/8	23,076

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 外国(外貨建)公社債(通貨別)

作成期	当			期			末		
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間	別組入比率	5年以上	2年以上	2年未満
区分	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%	%
アメリカ	44,900	46,021	4,922,038	95.7	-	40.5	24.9		30.4

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 外国(外貨建)公社債(銘柄別)

区分	銘柄	種類	年 利率	額面金額	評 価 額		償還年月日
					外貨建金額	邦貨換算金額	
				千アメリカ・ドル	千円		
アメリカ	Mizuho Bank Ltd	社債券	2.6500	2,700	2,689	287,673	2019/09/25
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	3.6500	1,000	1,001	107,087	2025/07/23
	Mitsubishi UFJ Trust & Banking Corp	社債券	2.6500	3,000	2,967	317,391	2020/10/19
	Toyota Motor Credit Corp	社債券	3.3000	1,500	1,513	161,862	2022/01/12
	Nissan Motor Acceptance Corp	社債券	2.3500	3,200	3,191	341,322	2019/03/04
	Mizuho Financial Group Inc	社債券	2.9241	1,000	1,008	107,859	2022/02/28
	Meiji Yasuda Life Insurance Co	社債券	5.2000	2,000	2,089	223,418	2045/10/20
	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	社債券	2.7571	3,500	3,500	374,422	2023/03/02
	Mitsui Sumitomo Insurance Co Ltd	社債券	7.0000	2,000	2,240	239,568	2022/03/15
	Sumitomo Life Insurance Co	社債券	6.5000	2,500	2,790	298,457	2073/09/20
	Nippon Life Insurance Co	社債券	5.0000	1,300	1,356	145,117	2042/10/18
	Fukoku Mutual Life Insurance Co	社債券	6.5000	1,500	1,671	178,766	永久債
	Sompo Japan Insurance Inc	社債券	5.3250	2,500	2,650	283,417	2073/03/28
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社債券	2.3690	1,300	1,300	139,054	2018/09/10
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社債券	2.0790	1,400	1,384	148,100	2019/11/05
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社債券	2.4500	2,500	2,500	267,396	2019/01/10
	Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ Ltd/The	社債券	3.2500	3,700	3,648	390,254	2024/09/08
	Nomura Holdings Inc	社債券	6.7000	3,300	3,534	378,060	2020/03/04
Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd	社債券	2.7500	3,000	2,976	318,308	2020/10/21	
Mitsubishi Corp	社債券	3.3750	2,000	2,005	214,498	2024/07/23	
合計	銘柄数 金額	20銘柄		44,900	46,021	4,922,038	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	4,922,038	89.2
コール・ローン等、その他	595,102	10.8
投資信託財産総額	5,517,141	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月12日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝106.95円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産（5,119,269千円）の投資信託財産総額（5,517,141千円）に対する比率は、92.8%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年3月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	5,517,141,091円
コール・ローン等	177,088,359
公社債(評価額)	4,922,038,997
未収入金	364,226,995
未収利息	53,786,740
(B) 負債	374,525,531
未払金	374,525,531
(C) 純資産総額(A - B)	5,142,615,560
元本	5,173,119,098
次期繰越損益金	△ 30,503,538
(D) 受益権総口数	5,173,119,098口
1万口当り基準価額(C / D)	9,941円

\* 期首における元本額は5,669,314,641円、当期中における追加設定元本額は131,010,153円、同解約元本額は627,205,696円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ日本企業外債ファンドS（為替ヘッジあり）2016-03 2,613,854,268円、ダイワ日本企業外債ファンドS（部分為替ヘッジあり）2016-03 2,559,264,830円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,941円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は30,503,538円です。

■損益の状況

当期 自2017年9月12日 至2018年3月12日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	96,346,591円
受取利息	96,357,447
支払利息	△ 10,856
(B) 有価証券売買損益	△200,759,066
売買益	15,725,557
売買損	△216,484,623
(C) その他費用	△ 303,199
(D) 当期損益金(A + B + C)	△104,715,674
(E) 前期繰越損益金	96,416,593
(F) 解約差損益金	△ 26,194,304
(G) 追加信託差損益金	3,989,847
(H) 合計(D + E + F + G)	△ 30,503,538
次期繰越損益金(H)	△ 30,503,538

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。